

こうなる！2016年都県別私立高入試

東京23区私立高校

(1) 校名変更

来春は日体荏原が校名変更を「日本体育大学荏原(略称日体大荏原)」に変更します。学校法人が日本体育会から日本体育大学に変更されたことの一環です。

(2) 推薦入試の新設、入試科目の変更等

城北が推薦入試を新設します。入試日程は1月22日で、第一志望に限定し、20名の募集です。埼玉・千葉県生を含め、併願は扱いません。国数英の適性検査(各50分)と面接で、適性検査300点満点+中3内申45点満点の合計345点満点とし、その上位から合格者を決定します。なお、一般入試2回(2月12日)は廃止します。また、広尾学園の医進・サイエンスコースは入試科目が国数英または英数理の選択でしたが、国数英に一本化されます。成立学園は通常の入試とは別建てで、各コース対象の英語入試を2月20日に新設します。科目は英語+面接です。また、淑徳SCはAO入試新設を2月10日に新設します。自己推薦書を提出、作文+面接です。

(3) 学科・コース、クラスの改編

学科・コースの改編を行う高校は来春も少なくありませんが、従来は多くの場合、難関大学合格対策を看板にしたコースの新設や、上位大学志向に対応した中堅レベルのコースのレベルアップなど、進学志向のコース強化と専門色の強いコースの募集停止が中心でした。しかし、今春からグローバル化関係の改編が増えてきました。富士見丘は英語特選コースと普通コースの2本立てでしたが、大きく改編し、アドバンストコースとグローバルコースの設定になります。アドバンストコースは、通常の中学生を対象とするアドバンストAのほか、現地校出身の帰国生やインターナショナルスクール生を対象とするアドバンストBも設置します。

駒込は国際教養コースを新設します。こちらは一般入試が英国社の3教科である点が注目されます。東京女子学院は外国語コースを新設、文化学園大杉

並は英語コースを国際コースに改編するほか、アドバンストコースの募集を停止します。

従来型の改編では、帝京大系属帝京が文理コース特進クラスを特進コースとして独立させます。淑徳SCはI類に最上位としてSクラスを新設、村田女子は普通科アドバンストコースにαクラスを新設、従来のコースはアドバンストコースβクラスとします。共栄学園は普通コースを進学コースとし、進学カラーを強めます。一方、国本女子はスーパーアドバンストコースと総合進学コースを一本化、普通科として募集します。東京家政大附属も躍進・創造の2コース制を躍進iコースに一本化しますが、こちらは上位生を躍進i-Eとして募集します。なお、日大豊山は体育コースをスポーツコースに変更します。

視点・観点

① 男子校

男子の最難関校、開成は今春、応募者がやや増加しましたが、来春に向けても人気に特に変化は見られません。難度も上限いっぱいです。厳しい入試になるでしょう。本郷は今春、応募者の増加が目立ちましたが、来春に向けては人気落ち着いてきたようです。来春は今春並みの難度でしょう。巣鴨は今春、応募者が減少し、やや入り易くなって小規模な入試になりました。来春に向けても人気に変化はなく、やはり今春並みの難度になりそうです。城北は推薦入試を新設し、2月12日の入試を廃止することが注目されます。今春は昨年並みの応募者でしたが、一般入試の定員が削減されることから、来春はやや軟化しそうです。成城は人気が上がっていましたが、今春は昨年並みでした。来春に向けては成績上位生の人気が上がっているようで、少し難化するかもしれません。

京華、佼成学園、足立学園は今春、応募者の増加が目立ちました。このうち、足立学園・普通は受験者の学力層が若干下がったようで、少し入り易くなっていますが、同校の文理や、京華と佼成学園は、佼成学園に新設された難関国公立コースも含め、事

前予測とあまり変わらない難度でした。3校とも来春に向けては人気落ち着いていて、各コースとも難度は今春並みになりそうです。日本学園も今春は応募者が増えていましたが、受験者の学力層がやや下がっているようで、特別進学、総合進学とも少し入り易くなっていますが、来春も難度に変化はなさそうです。

正則学園は今春、応募者の減少が目立ちました。少し入り易くなっています。保善は今春の応募者数が昨年並みでしたが、同校も特進以外はやや受験者の学力層が下がっているようで、少し入り易くなりました。正則学園も保善も、来春に向けての人気の特に変化は見られず、今春並みの難度になりそうです。自由ヶ丘学園と昼間定時制の科学技術学園は、今春は昨年並みの応募者でしたが、やはり人気の特に変化は見られません。難度も今春とあまり変わらない水準でしょう。中高一貫校の途中編入の色合いが強い世田谷学園と帰国生入試のみの聖学院は、来春も小規模な入試になりそうで、やはり難度に変化はなさそうです。

附属校では早大学院の応募者が昨年まで減少していましたが、今春は歯止めがかかりました。併設中学からの内部進学生が出るようになって、募集定員が減った影響が止まってきました。ただ、高水準の入試ですから入り易くなったわけではありません。来春に向けては人気に変化は見られず、やはり高水準の難度になりそうです。明大中野も今春は昨年並みの応募者でした。やはり人気に変化は見られず、来春も今春並みの難度になりそうです。

日大豊山は一昨年、昨年の応募者減少が反転、今春は増加しました。やはり来春に向けても人気に変化はなさそうで、今春並みの難度でしょう。芝浦工大は原則中高一貫、高校募集は小規模でしたが、一昨年から高校募集にも力を入れ、今春は応募者が大幅に増えました。2017年度から豊洲に移転して女子クラスを設置する予定で、来春に向けて人気が上がっています。少し難化するかもしれません。学習院と立教池袋は小規模な入試で、受験生にあまり認知度が高くありません。今春は両校とも少し入り易くなっていますが、来春に向けてもその傾向に変化はなく、今春と同じような難度になりそうです。

② 女子校

慶應女子は今春、昨年並みの応募者数で、来春に向けても特に人気に変化は見られません。来春も厳しい難度になりそうです。豊島岡女子、十文字、江戸川女子は、3校とも昨年、今春と応募者が増えていて、人気が上がっていました。このうち、江戸川女子は来春に向けても人気さらに上がっているようで、各コースとも少し難化するかもしれません。十文字は今春の受験者の学力層が少し下がっていたようで、各コースともやや入り易くなりましたが、来春に向けては人気に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。豊島岡女子も人気に変化はなく、やはり今春並みの難度になりそうです。

日大豊山女子は、今春は応募者が減っていますが、隔年的な変動が目立つ学校で、来春は増えそうです。今春は普通がやや入り易くなっていますが、併願受験生が多いことから、来春は応募者が少々増えても理数、普通とも今春並みの難度だと思われます。東京家政大附属も隔年的に応募者が変化していて、今春はやや増加していましたから、来春は減る順番です。しかし、前述のようにコースを改編しますので、人気の動向に変化が出るかもしれません。新コースの躍進 i-E、躍進 i とも、少なくとも今春の躍進、創造並みの難度だと考えた方が良いでしょう。女子美大付属はその性格から、固定人気が目立つ学校で、同校も難度の面では今春並みになりそうです。

富士見丘、佼成学園女子、トキワ松、東京家政学院、千代田女学園、小野学園は、今春応募者の増加が目立ちました。富士見丘は人気は上向いていますが、文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定されたことから、前述のように来春はコースを改編します。人気は上がっているようで、グローバルコースは少なくとも今春の一般コース並み、アドバンスコースは、今春の英語特選よりも難化しそうで、注意が必要です。佼成学園女子は昨年、今春と応募者の増加が目立っていました。同校は昨年のSGH指定校で、好感度が上がっています。来春に向けてはSGHではなく、通常コースの特進文理がやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みでしょう。トキワ松も連続して応募者が増加していました。来春に向けては、人気の特に変化は見られないようです。各コースとも今春並みの難度でしょう。

東京家政学院、千代田女学園、小野学園は、昨年まで小規模な入試でしたが、東京家政学院と千代田女学園は今春、コースを改編し、人気が上がりました。来春に向けても人気が上がっているようで、両校の各コースとも、やや難化するかもしれません。小野学園は今春、進学コースの受験者の学力層がやや下位に移ったようで、少し入り易くなっています。来春に向けては、人気に特に変化はなく、特進、進学コースとも今春並みの難度でしょう。

安部学院と品川エトワールも、今春は応募者の増加が目立ちましたが、両校とも隔年的な増減が目立ちます。来春は減ることになりそうですが、定例的な変化ですから、両校各コースとも難度はあまり変わらないと思われます。

文京学院大女子、潤徳女子、村田女子、下北沢成徳、蒲田女子、京華女子、宝仙学園女子部、日本女子体育大二階堂は、今春応募者の減少が目立ちました。このうち文京学院大女子は今春、大幅なコースの改編を行いました。受験生への浸透が不十分だったようです。来春に向けては浸透が進むでしょう。今春は国際コースのアドバンスとスタンダードが少し入り易くなっていますが、来春は各コースとも今春並みの難度でしょう。潤徳女子も一部のコースの募集を停止したことが影響したようです。来春に向けては人気に特に変化は見られません。やはり難度は各コースとも今春並みと思われます。村田女子は前述のように普通科アドバンスコースにαクラスを新設します。人気を上向いているようで、このαクラスは、従来よりも1ランク上の難度になるでしょう。在来クラスのアドバンスβや商業科アドバンスコースもやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。

下北沢成徳と蒲田女子は、少し人気に陰りが出ているようで、下北沢成徳の特進コースと蒲田女子の各コースは少し入り易くなっていました。来春に向けては下北沢成徳の国際コースの人気が上がっているようで、やや難化するかもしれません。他のコースと蒲田女子は今春並みの難度でしょう。京華女子、宝仙学園女子部、日本女子体育大二階堂は、隔年的な応募者の変動です。京華女子の文理コースと日本女子体育大二階堂の保健福祉コースは少し入り易くなっています。来春はこの3校とも応募者が増えそうですが、このうち宝仙学園女子部の進学コースは

人気が上がっています。難化しそうで注意が必要です。他のコースや京華女子と日本女子体育大二階堂は、併願受験生が多いこともあって、各コースとも今春とあまり変わらない難度でしょう。

文化学園大杉並、東洋女子、愛国、神田女学園、瀧野川女子、女子美大付属は、今春の応募者が昨年並みでした。文化学園大杉並、東洋女子、愛国は、来春に向けては人気が少し上がっているようです。文化学園大杉並は前述のようにコースの改編を行います。改編の国際コースは、今春の英語コースよりもやや難化するかもしれません。東洋女子は総合進学コースが、愛国は普通科と商業科がやや難化するかもしれません。3校の他のコースは今春とあまり変わらない水準でしょう。神田女学園は今春、進学コースの受験者の学力層が少し下位に移ったようで、やや入り易くなりましたが、来春に向けては人気に変化は見られず、特進、進学とも今春並みの難度でしょう。瀧野川女子も人気に変化はなく、やはり各コースとも今春並みの難度になりそうです。

川村、北豊島、国本女子、淑徳SC、成女、星美学園、玉川聖学院、東京女子学院、東京女子学園、新渡戸文化、日本音楽、日本橋女学館、八雲学園は、今春、小規模な入試でした。玉川聖学院と北豊島・総合コースは今春、受験者の学力層がやや下位に移っていて、少し入り易くなりました。来春に向けては、東京女子学院に外国語コースが新設されます。在来コースの総合コースよりも1ランク上の難度になりそうです。国本女子はスーパーアドバンスとコースの募集を停止して普通科一本の募集になりますので、普通科は若干難化するかもしれません。日本橋女学館の芸術進学コースは人気が上がっているようで、少し難化するかもしれません。これ以外の各校各コースは人気にあまり変化は見られません。いずれも今春並みの難度でしょう。

③ 男女校・附属カラーが強い学校

今春は、青山学院と昼間定時制の中央大学の応募者増加が目立ちました。来春に向けては、青山学院の男子の人気が上がっているようです。やや難化するかもしれません。青山学院の女子と中央大学は今春とあまり変わらない難度になりそうです。東海大高輪台、駒澤大学、日大桜丘、日大第一、日大第二は、今春応募者の減少が目立ちました。このうち、

東海大高輪台、駒澤大学、日大桜丘、日大第二は、隔年的な応募者の増減が目立つ学校です。東海大高輪台は今春、やや受験者の学力層が下位にシフトして少し入り易くなったようです。来春に向けては、駒澤大学の人気が上がっているようです。やや難化するかもしれません。東海大高輪台、日大桜丘、日大第二は応募者の傾向から、来春は応募者が増えるかもしれませんが、難化はしないと思われます。日大第一の応募者の減少は、応募者が絞られた面が強く、来春に向けては人気を上向いているようです。やや難化するかもしれません。

日大鶴ヶ丘と明治学院も今春はやや応募者が減っていましたが、来春に向けては人気に変化はなく、日大鶴ヶ丘の特進コースも含め、両校とも今春並みの難度でしょう。成城学園、専修大附属、中大杉並は、今春は昨年並みの応募者数でした。この3校も人気に特に変化は見られません。来春も今春並みの難度になりそうです。

④ 男女校・附属カラーが弱い、純粋な進学校で今春応募者の増加が目立った学校

今春は男子校の京北と女子校の戸板女子が共学化、校名はそれぞれ東洋大学京北、三田国際学園に変更してイメージを一新、応募者は大きく増加しました。来春に向けては両校とも人気はさらに上向きになっていて、さらに難化しそうです。要注意です。特に三田国際のスーパーサイエンスコースはかなり難化するかもしれません。以前のイメージで考えていたら合格はかなり難しいと思われます。また、帰国生募集だけだったかえつ有明が本格的な一般募集を再開、決して規模は大きくありませんが、高いレベルの入試でした。来春も今春並みの難度になりそうです。

この3校以外では、郁文館、郁文館グローバル、関東第一、国学院、淑徳巣鴨、順天、昭和鉄道、成立学園、多摩大目黒、帝京大帝京、東京農大第一、東洋、広尾学園、文教大付属、宝仙学園共学部、豊南、堀越、目黒学院、目白研心、立正大立正の応募者の増加が目立ちました。このうち、関東第一、文教大付属、宝仙学園共学部、堀越、目黒学院、目白研心、立正大立正は昨年続く応募者の増加で人気が上がっていました。来春に向けては関東第一、文教大付属、堀越、目白研心の人気は引き続き上がっ

ているようです。関東第一の特進コース、進学Gコース、進学Aコース、文教大付属、堀越、目白研心の特進コース、スーパーイングリッシュコースが少し難化するかもしれません。特に文教大付属は要注意です。関東第一のその他のコースや、目白研心の選抜コースも昨年並みの難度でしょう。宝仙学園共学部、目黒学院、立正大立正も人気に変化は見られません。3校の各コースとも今春並みの難度になりそうです。

郁文館グローバル、淑徳巣鴨、順天、成立学園、東洋は、昨年から今春にかけて人気が上がりました。来春に向けては淑徳巣鴨、順天、東洋の人气がさらに上向いているようです。特に順天はSGH校でもあり、英語選抜コースは難化の可能性が高くなっています。淑徳巣鴨の特進コース、東洋の総合進学コースもやや難化するかもしれません。この3校の他のコースも今春並みの難度でしょう。郁文館グローバルと成立学園も人気に変化は見られず、両校の各コースとも今春並みの難度になりそうです。

郁文館、国学院、昭和鉄道、多摩大目黒、帝京大帝京、東京農大第一、広尾学園、豊南は、昨年は応募者が減っていたので隔年現象です。広尾学園は共学のトップレベル校で、来春に向けても高い人気ですが、難化しすぎたと感じる受験生も多いようで、来春は応募者が減るかもしれませんが、減っても絞られただけで、医進・サイエンス、本科の両コースともさらに難化しそうです。要注意でしょう。帝京大帝京は前述のように特進をコースとして独立させますが、学力上位生の注目度が上がっているようで、特進コース、文理コースとも応募者が減ってもやや難化するかもしれません。インターナショナルコースとアスリートコースは今春並みの難度でしょう。

昭和鉄道は独特な学科で、全国から応募があります。やはり応募者が減ってもやや難化する可能性があります。郁文館は受験者の学力層が少し下位に移ったようで、今春は一般コースがやや入り易くなっていました。来春は隔年現象で応募者が減るかもしれませんが、各コースとも今春並みの難度になりそうです。国学院、多摩大目黒、東京農大第一、豊南も、応募者は少し減るかもしれませんが、隔年的な傾向ですから、各校各コースとも入り易くなることはなさそうです。

⑤ 男女校・附属カラーが弱いか、純粋な進学校で今春応募者の減少が目立った学校

今春応募者の減少が目立ったのは岩倉、関東国際、錦城学園、国士館、青稜、淑徳、駿台学園、大東学園、大東文化第一、貞静学園、東京都市大等々力、豊島学院、二松学舎大附属、日体荏原改め日体大荏原、安田学園でした。このうち、岩倉と安田学園は昨年共学化、応募者が大きく増えましたので、今春はその反動ですが、受験者が絞られての減少です。来春に向けても人気は高く、岩倉は特進コースと総合進学コース、安田学園は3コースともやや難化するかもしれません。岩倉のS特コースと運輸科は今春並みの難度になりそうです。

関東国際、錦城学園、国士館、淑徳、豊島学院、二松学舎大附属、日体大荏原は、昨年がその前の年とあまり変わらない応募者でしたから、やや受験生が離れたようですが、淑徳は難化が進んで受験生が絞られての応募者減で、来春に向けては人気が上がっています。特進選抜コースは少し難化しそうです。スーパー特進は今春並みの難度でしょう。国士館は新設した選抜コースの受験生への浸透が今一つだったことによる減少で、来春に向けてはその選抜コースは少し難化しそうです。進学コースは今春並みでしょう。二松学舎大附属は進学コースの、豊島学院は特進コースの人気が上がっているようです。それぞれやや難化するかもしれません。二松学舎大附属と豊島学院の他のコースも今春並みの難度になりそうです。関東国際は昨年の入学者が多すぎて、公立併願の優遇措置を取りやめたための応募者減少で、来春に向けては人気が上がっているようです。日体大荏原と錦城学園も人気に特に変化は見られません。この3校の各コースとも今春並みの難度でしょう。

青稜、駿台学園、大東学園、大東文化第一、貞静学園、東京都市大等々力は、昨年は応募者が増えたので隔年的な変化ですが、青稜と東京都市大等々力は難化が進んで受験生の敬遠傾向が進んだ面も大きく、応募者の傾向通りなら来春は応募者が増えそうですが、あまり増えないかもしれません。ただ、両校ともやや難化しそうで、応募者が増えなかったとしても、厳しい入試が予想されます。大東文化大第一は人気の上向いているようで、特進コースは少し難化するかもしれません。選抜進学コースと進学コースは今春並みの難度でしょう。大東学園は

今春、福祉コースの受験者の学力層が少し下にシフトしてやや入り易くなったようですが、来春に向けてはコースの性格もあり、応募者が増えても難化することはなさそうです。同校の普通コースや駿台学園、貞静学園の各コースも、来春応募者が増えても、例年の傾向どおりなので今春並みの難度でしょう。

⑥ 男女校・附属カラーが弱いか、純粋な進学校で今春は概ね昨年並みの応募者数だった学校

国学院久我山、実践学園、修徳、杉並学院、正則、中央学院大中央、東京実業、東京成徳大、日本工大駒場、武蔵野は、昨年減っていた応募者の減少が一段落しています。国学院久我山は男子が文科系・理科系募集、女子は理科系のみ募集になりましたが、来春に向けては女子の人気が上がっているようです。いわゆる「リケジョ」志向でしょう。女子はやや難化するかもしれません。男子は今春並みの難度だと思われそうです。このほか、来春に向けて杉並学院は特進、文理の両コース、修徳は文理進学コース、実践学園は特進コース、日本工大駒場は特進、理数特進、総合進学の3コース、武蔵野は特進コースの人気が上がっているようです。これらはやや難化するかもしれません。特に武蔵野の特進コースは要注意です。各校の他のコースは今春並みの難度でしょう。

大森学園、京華商業、駒込、駒場学園、桜丘、城西大城西、東亜学園、日出、朋優学院は、昨年は応募者が増えていたので、人気が一段落したことになります。来春に向けては、朋優学院の人気が大きく上がっています。今春の応募者一段落も、ハードルが高くなったと感じた受験生が多かったからで、来春に向けては今までよりも高学力の受験生からの注目度が高くなっています。進学コースは難化確実に要注意、国公立コースと特進コースも難化しそうです。桜丘も来春に向けて人気が上がっているようで、グローバル対応のクリエイティブリーダーズコースと特進コースは、やや難化するかもしれません。特待コースは今春並みの難度でしょう。京華商業も人気の上向いているようです。やや難化するかもしれません。

大森学園は、特進、進学、普通コースの人気が高まるにつれて、工業科の影が薄くなってきていて、今春の工業科はやや入り易くなったようです。来春に向けては工業科も含め、各コースとも今春並みの

難度でしょう。駒込はグローバル対応の国際教養コースを新設しますが、前人気は上々で、スーパーアドバンスコースよりも若干難しくなるかもしれません。既存の各コースは今春並みの難度でしょう。他校は各コースとも今春とあまり変わらない難度だと思われる。

上野学園、共栄学園、松蔭、昭和第一、東京、東京立正は今春も含めて過去3年間、ほぼ同じ応募者数が続いていました。共栄学園は今春、特進コース

の合格基準を少し下げたようで、やや入り易かったようです。来春に向けては東京立正のアドバンスト、スタンダードの両コース、上野学園は特進α、特進β、総合進学 of 3コース、共栄学園は進学コース、そして松蔭の人気が上がっているようです。やや難化するかもしれません。この3校の他のコースや、昭和第一、東京の各コースは今春並みの難度だと思われる。

東京多摩地区私立高校

学科・コースの改編など

例年、コースの改編では進学校としての体制強化を行う学校が目立ちますが、来春に向けては様相が異なっていて、明星はMGS(グローバルサイエンス)コースを新設し、在来 of コースは本科としますが、グローバル化に対応する人材育成を目指すものです。また、藤村女子は総合コースを新設します。同校は2013年度までの総合コースを募集としていましたが、当時とは異なり、現在の進学コースより入り易いコースとして、より多くの受験生に門戸を広げようとするコースです。聖徳学園は一般コースを進学コースに改称しますが、こちらはコースの性格をわかり易くしようとするものです。このほか、日体桜華は推薦入試の中で、AO入試型を新設します。なお、日体桜華は日体荏原や柏日体の系列校で、日体荏原と柏日体は、それぞれ「日体大荏原」「日体大柏」に校名を変更しますが、日体桜華は変更しません。

視点・観点

① 男子校・女子校

男子校は桐朋と明法だけです。桐朋は今春人気が上がって、やや難化した入試ですが、来春に向けては特に人気に変化は見られません。23区の城北が推薦入試を実施しますが、影響はなさそうです。今春並みの難度でしょう。明法も今春は応募者が大きく増えましたが、併願受験生が多いことから、総合進学は若干入り易くなっていたようです。来春に向けては特に人気に変化は見られないようで、特進、総合進学とも難度に変化はなさそうです。

女子校では今春、鶴川と日体桜華の応募者が大きく増加、藤村女子と武蔵野女子学院も応募者の増加

が目立ちました。鶴川と日体桜華はどちらも比較的入り易い学校で、首都圏全般に「入り易い公立よりも、面倒見の良い私立」のムードが高くなっていることも応募者増加の理由でしょう。来春に向けてもこの傾向は続きそうですが、難度の面では今春並みだと思われる。藤村女子と武蔵野女子学院はコースの改編が歓迎されたからで、藤村女子は進学カラーの強化、武蔵野女子学院は早期からのコース分けと留学対応のコース新設などがその内容でした。来春は上記の通り藤村女子が総合コースを新設します。今春の進学コースやスポーツ科学コースよりも入り易いコースなので、全体的に応募者が増えるかもしれませんが、在来 of コースは今春並みの難度でしょう。武蔵野女子学院は特に人気に変化は見られないようです。各コースとも今春並みの難度になりそうです。

駒沢学園女子は今春、応募者の減少が目立ちましたが、来春に向けては人気に特に変化はなさそうで、各コースの難度も今春と大差ない水準だと思われる。白梅学園は今春の応募者に目立つ変化はありませんでしたが、来春に向けては上位コースの人気が上がっているようです。特選I、特選Sはやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みでしょう。共立女子第二、立川女子、文華女子、小規模入試の桐朋女子・普通も人気は安定しているようです。各校各コースとも難度に変化はなさそうです。同じく小規模入試の東京純心女子は希望者の学力層が少し上がっているようです。人数的には来春も小規模になりそうですが、やや難化するかもしれません。なお、桐朋女子・音楽は共学ですので、次項をご覧ください。

② 男女校

まず附属校カラーの強い学校から。今春はトップ校早稲田実業をはじめ、国際基督教大、法政大学、明治学院東村山、成蹊、創価、独特な教育方針の玉川学園、小規模な入試の桐朋女子・音楽(音楽科は共学)とも応募者数は昨年並みでしたが、来春に向けても各校とも人気に目立った変化は見られないようです。各校、各コースとも今春とあまり変わらない難度になりそうです。国立音大附属も小規模な入試の学校で、今春も応募者に目立った動きは見られませんが、普通コースがあり、こちらは来春に向けて人気が少し上がっているようです。音楽科ほどではないにせよ、音楽教育の比重が高いコースは他にあまり例がないことが理由でしょう。やや難化するかもしれません。音楽科は今春並みの難度でしょう。

明大明治は今春、応募者の増加が目立ちましたが、去年は減っていましたので、隔年的な変化です。来春は応募者がやや減るかもしれませんが、難度面では変化がなさそうです。明大中野八王子は逆に、隔年的な変化で今春は応募者の減少が目立ちましたが、来春に向けては人気回復してきているようです。こちらが定例的な変化なので、難度に影響はなさそうです。中大附属も今春は応募者の減少が目立ちました。同校は去年に続く減少で、2013年に併設中学からの内部進学生が出て募集定員を減らしたことや、去年の中大附属横浜の共学化の影響がまだ残っているようです。ただ、難度の面では変化がなく、来春に向けても人気に変化は見られませんが、今春並みの難度でしょう。

進学校カラーが強い大学系列の学校では、今春、桜美林、東海大菅生、明星の応募者の増加が目立ちました。桜美林と東海大菅生は、来春に向けても人気は上向きなようで、桜美林と東海大菅生の特進はやや難化するかもしれません。東海大菅生・総合進学は今春並みの難度でしょう。明星は前述のようにMGS(グローバルサイエンス)コースを新設します。サイエンスはともかく、グローバルを看板にしたコースは、都心に近い学校で人気は上がる傾向があり、府中市の明星ではどのような応募者数になるか注目されますが、従来の同校よりもワンランクアップした難度になりそうです。在来コースの本科は難度に変化はなさそうです。また、小規模な入試の多摩大

聖ヶ丘は、今春応募者が一気に倍増しましたが、その結果、やや難化しています。来春に向けては人気は落ち着くかもしれませんが、難度は下がらないと思われる。

工学院大附属、日大第三、拓大第一、和光は、今春は応募者の減少が目立ちましたが、工学院大附属は受験生の学力層が底上げされたようで、文理普通はやや難化していました。来春に向けても人気に変化はなく、難度は維持しそうです。文理特進も今春並みの難度でしょう。日大第三は昨年、公立併願の優遇扱いを廃止して、一気に7割も応募者が減少、今春もまだその影響が残っていました。来春に向けても人気にあまり変化は見られず、特進はやや入り易くなるかもしれません。普通は今春並みと思われる。拓大第一は、去年は応募者が増えたので、隔年的な変化です。来春は応募者が増えると思われるが、併願が多く、難度は各コースとも今春並みでしょう。和光は独特な教育方針の学校で、来春もこの方針に賛同する受験生中心の入試になるでしょう。難度に変化はなさそうです。

帝京大学、東京電機大、帝京八王子は今春、昨年並みの応募者数でしたが、帝京大学と東京電機大は受験生の学力層が底上げされた入試でした。来春に向けてもこの傾向が続いていて、やや難化するかもしれません。帝京八王子は人気に変化は見られないようで、各コースとも今春並みの難度になりそうです。

進学校では多摩地区のトップ校の錦城をはじめ、八王子学園、大成の今春の応募者に大きな変化は見られませんでした。来春に向けては大成の人気は上がっているようです。各コースともやや難化するかもしれません。八王子学園は今春、コースを大きく改編しましたが、来春に向けては総合進学の人気は上がっているようです。少し難化するかもしれません。他のコースは見今春並みでしょう。錦城はトップ校の貫録からか、人気に特に変化は見られないようです。特進・普通とも今春並みの難度でしょう。

聖徳学園と昭和第一学園は今春、応募者の増加が目立ちました。来春に向けては人気は落ち着きが見られるようです。聖徳学園は来春も今春とあまり変わらない難度でしょう。昭和第一学園は入試規模が大きい学校で、隔年的な応募者数の変化が目立つ学校です。以前よりも受験希望者の学力層が底上げさ

れてきたようで、来春、応募者が少し減るようなことがあっても、特進、総合進学ともやや難化するかもしれません。工学は今春並みでしょう。

聖パウロと八王子実践は今春、応募者の減少が目立ちましたが、両校とも隔年的な応募者の変動が目立ちます。聖パウロは今春、総合進学が少し入り易くなったようです。来春は応募者が増えそうですが、

総合進学、特進とも、今春並みの難度でしょう。八王子実践は人気を上向いているようで、調理は今春並みの難度になりそうですが、他のコースはやや難化するかもしれません。独特な存在の明星学園、啓明学園、東星学園、自由学園は、人気に特に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。

神奈川県私立高校

(1) 共学化・募集再開・帰国入試

法政第二が男子校から共学化します。男女別定員制とし、書類選考男子250名・学科入試男子120名でしたが、来春は書類選考男子200名・女子100名、学科入試男子75名・女子60名と、女子の方が少ない定員です。また、法政女子は帰国生入試を新設します。定員は特に定めません。同校が文部科学省からSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定されていること、2018年度に共学化して、法政大学国際高校に校名を変更する予定のため、その一環です。

横浜富士見丘は中等教育学校(制度上中学・高校とは異なり、両者が名実ともに合体した学校で、学年も1年~6年となっています)で、原則として後期課程(高校相当)段階では募集しませんが、来春は編入募集を実施します。推薦と一般入試の両方を実施し、定員は推薦・一般合計で1クラス程度を予定しています。関東学院六浦も完全一貫校(こちらは中等教育学校ではなく通常の中学・高校で、今まで高校募集は併設中の卒業生限定でした)ですが、来春からラグビー経験者に限定した高校募集を、推薦・一般(書類選考)各5名で実施します。ラグビー部の強化が目的です。

(2) 学科・コースの改編

神奈川県でも特進コースの新設や、進学系コースのレベルアップを目指した改編を行う学校が多くあります。来春は湘南工科大附属が進学ベーシックコースを進学スタンダードコースに変更、緑ヶ丘女子は普通コースを進学・総合コースに変更します。また、白鵬女子は国際コースに上位クラス新設を予定しています。国際A・Bと呼称する予定です。一方、進学は重点としつつも、スポーツを前提としたコー

スの新設するのが藤嶺藤沢で、新設のコースがⅡ類、従来のコースはⅠ類となります。また、桐光学園の男子部は従来上位コースのSAコースとAコースの2コース募集でしたが、Aコースの募集を停止し、上位コースのみの募集になります。すでに女子部はAコースの募集を停止してSAのみの募集ですが、男子もそれに合わせる形になります。

視点・観点

① 川崎・横浜地区

この地域の最大の話題は、男子校の法政第二が共学化することです。以前から告知活動が活発だったこともあって、受験生への浸透は十分です。女子の方が定員が少ないこともあって、女子が高倍率になりそうです。また、男子も定員が減りますから難化は確実です。男女とも今春までの同校よりも1ランクアップした難度になりそうで、要警戒校です。

他校は男子校から見ていきます。慶應義塾は今まで2月13日だった入試を、今春は12日に前倒しにしました。日程が公立高校と重なったため、公立に譲る形で1日前倒ししたものです。このため、13日の都内国立校と併願が可能になりましたが、逆に12日に入試を行う他の私立高校との併願ができなくなり、12日の私立を抑えとして13日に慶應を狙う従来の受験パターンが組めなくなりました。こうした影響もあって、応募者が減っていますが、入り易くなったわけではありません。来春も12日に入試を行います。人気に変化は見られず、高難度の入試になるでしょう。

武相は昨年進学コースを新設し、総合コースを総合コース文科・同体育クラスの別編成に変更、特進と合わせて3コース制・4段階としました。今春は応募者がやや減っていて、進学コースと総合コース

文科は少し入り易くなったようですが、来春に向けては学力上位生の人気が上がっているようです。特進コースは少し難化するかもしれません。他のコースは今春並みでしょう。横浜は今春応募者の減少が目立ち、特進コースと文理コースはやや入り易くなったようです。同校は昨年、応募者の増加が目立ち、隔年的に変化していますので、来春は応募者が増えそうですが、併願受験生が中心になっていることもあって、各コースとも今春並みの難度になりそうです。

女子校では法政女子が、系列の法政第二の共学化の影響を受けて、応募者が少し減るかもしれません。しかし、文部科学省のSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定されていること、2018年度に共学化し、SGH指定を踏まえて校名を「法政大学国際高校」に改称する予定があることなどから、応募者が減っても入り易くなることはなさそうで、今春並みの難度でしょう。日本女子大は、今春応募者の減少が目立ちました。昨年は増えていましたから、隔年的な変動です。来春に向けてはやや人気が上がっているようで、応募者が増えるかもしれませんが、予定の動きになっていることもあって、難度の面では今春とあまり変わらない水準になりそうです。

高木学園女子と白鵬女子は、比較的入り易い女子校として、最近では人気が上がっていましたが、両校とも今春は応募者が少し減りました。来春に向けては両校とも人気を上向いているようで、高木学園女子は商業科と情報科が少し難化するかもしれません。特に商業科は注意した方が良さそうです。普通科と家庭科は今春並みでしょう。白鵬女子はセレクトコースがやや難化するかもしれません。また、国際コースは2段階の設定に変更、上位クラスは国際Aとしますが、こちらは今までの国際コースより1ランク上の難度になりそうです。従来の国際コースは国際Bとなりますが、こちらは少し入り易くなるかもしれません。総合、保育福祉、メディア表現、スポーツの各コースは今春並みの難度でしょう。

なお、完全中高一貫校だった横浜富士見丘中等が後期課程として募集を再開します。高校として正式に募集を行っていたころは保土ヶ谷にありましたが、二俣川に移転しての募集です。一般入試は書類選考のみですので、難度のコメントは割愛します。

男女校では、昨年女子校から共学化した中大附属

横浜のオープン入試の応募者が大きく減りました。オープン入試は昨年人気が大爆発、男子は14倍、女子は10倍を超える実質倍率だったので、反動ですが、それでも男女とも10倍を超える大激戦でした。来春に向けては、学力上位生の人気が高い一方、「ハードルが高い」と敬遠する受験生も見られ、応募者は少し減るかもしれませんが、難度はさらにやや上がるかもしれません。

同じく附属カラーの強い日本大学(日吉)は、今春は応募者の増加が目立ちました。中学でグローバル化対応の新コース制を実施しますが、高校入試では特に変更はなく、人気も変化は見られません。来春も今春並みの難度になりそうです。

進学校では、桐蔭学園が今春、公立中学校との入試相談を行なう一般入試(B方式)を書類選考に切り替えて、多くの応募者がありました。来春に向けては、男子の人気が上がっているようで、男子部は理数科、普通科ともやや難化するかもしれません。女子部は人気に特に変化は見られず、理数コース、普通コースとも今春並みの難度でしょう。桐光学園は男子が上位コースのSAコースと通常のAコースの募集、女子はSAコースのみの募集ですが、来春から男子のAコースの募集を停止、男女ともSAコースのみの募集になります。女子も以前はAコースも募集していましたが、男子に先んじて取りやめ、今度は男子の番です。受験生に少し敬遠ムードが出ているようですが、レベルアップが狙いですから、男女とも今春並みのSAコースの難度になりそうです。山手学院は今春、オープン型の一般入試の応募者がやや増えましたが、公立中との入試相談を行う一般併願受験は減りました。来春に向けては理数コースの人気が上がっているようで、やや難化するかもしれません。普通コースは今春並みでしょう。

横浜隼人はこのところ人気が上がっていましたが、今春は昨年並みの応募者数で人気は一段落です。来春に向けては、新校舎が完成することもあって、人気は上向いているようです。進学コースはやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度になりそうです。横浜創英は今春、応募者の減少が目立ちましたが、来春に向けては人気も反転しているようで、各コースとも少し難化するかもしれません。特に特進コースは要注意です。

鶴見大附属は昨年に続いて今春も応募者が増加、

人気が上がっていました。来春に向けては人気に落ち着きが出てきたようです。特進、総合進学コースとも、今春並みの難度でしょう。横浜翠陵は、今春国際コースの応募者の増加が目立ちましたが、受験者の学力層がやや下位にシフトしてきたようで、国際コースは少し入り易かったようです。来春に向けては特進コースの人気を上向いているようで、やや難化するかもしれません。文理コースと国際コースは今春並みでしょう。

横浜創学館は、今春科学技術科の募集を停止し、進学校カラーを強めました。応募者も特進コースをはじめとする普通科の増加が目立っていましたが、来春に向けても進学校としての人気が上がっているようです。特進コースはやや難化するかもしれません。他のコースも今春並みの難度になりそうです。横浜商科大は今春、応募者がやや減っていましたが、特進コースが少し入り易くなっていたようです。来春に向けては、高学力層の人気に陰りが出ているようで、その分商業科の人気が上がっています。商業科はやや難化するかもしれません。普通科の各コースは今春とあまり変わらない難度になりそうです。

橘学苑も今春は応募者がやや減っていましたが、昨年並みの応募者だった横浜清風、横浜学園ともども人気に変化は見られないようです。また、入試状況を公表しない大西学園も、今春は一部のコースが少し入り易くなったようですが、これら4校の各コースとも、来春も今春並みの難度になりそうです。なお、関東学院は一般入試が小規模募集で書類選考のみのため、難度のコメントは割愛します。また、ラグビー経験者に限定した関東学院六浦の高校募集再開も、小規模で特殊なことから割愛します。

② 横須賀三浦地区、鎌倉～茅ヶ崎方面

まず男子校です。鎌倉学園は、今春は昨年並みの応募者数でしたが、来春に向けても人気に目立った変化は見られません。今春並みの難度になりそうです。藤嶺藤沢は昨年まで応募者が減っていましたが、今春はやや増えて人気は反転しました。来春に向けては、野球部に同校卒業生で元プロ野球選手をコーチに迎えたことから、前述のように進学を重視しつつも、スポーツにも力を入れるとして、スポーツ重視のⅡ類を新設します。Ⅱ類は従来よりも学力的には入り易いコースになります。従来のコースはⅠ類

になりますが、こちらは人気に変化はなさそうで、来春も今春並みの難度でしょう。同校の系列校、藤沢翔陵は、今春やや応募者が減っていましたが、このため、文理コースと商業科が少し入り易かったようです。来春に向けては、人気に変化はなく、普通科の特進、文理コース、商業科とも今春とあまり変わらない難度になりそうです。

女子校では鎌倉女子大の応募者がやや減少、北鎌倉女子は昨年に続いて応募者が少し増えていましたが、来春に向けては両校とも学力上位の受験生の人気が上向いているようで、鎌倉女子大、北鎌倉女子の特進、普通コースともやや難化するかもしれません。北鎌倉女子の音楽科はその性格から、難度は今春並みになりそうです。緑ヶ丘女子も今春は応募者がやや増えていました。来春は普通コースを、進学・総合コースに改称しますが、人気に変化は見られず、各コースとも今春並みの難度でしょう。聖和学院は小規模な入試で、今春は英語コースが少し入り易くなったようですが、来春も小規模の入試になりそうです。やはり各コースとも難度面では変化がなさそうです。

男女校では、上位校の日大藤沢、横須賀学院とも、今春の応募者は昨年並みで、人気に変化は見られませんでした。来春に向けても安定した人気で、両校とも今春並みの難度でしょう。湘南工科大附属は、今春、系列大学の工業教育との直結を第一に考えた技術コースを新設、特進コースは進学コースアドバンスセレクトとしました。難関大学への進学を看板にする学校が多い中で、特進コースの看板を下ろして専門系のコースを新設するのは大変珍しいことです。技術コースには130名以上の応募者がありましたが、進学系の各コースは応募者が減っていました。来春は前述のように進学ベーシックコースを進学スタンダードコースに改称しますが、中堅レベルの受験生の人気が上がっているようで、進学アドバンスコースはやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。

アレセイア湘南は、今春応募者の増加が目立ちましたが、来春に向けてはさらに人気が高まっています。大学での海外留学に本格的に力を入れたことが、受験生に好感をもって受け入れられているようです。学力上位の受験生の関心が高まっていて、特進選抜、特進コースは難化必至、進学コースもやや難化する

かもしれません。要警戒校でしょう。三浦学苑、鶴沼、湘南学院は、各校とも今春は昨年とあまり変わらない応募者数でした。三浦学苑の総合コースは、受験者の学力層がやや下位にシフトしたようで、やや入り易くなったようです。来春に向けては4校とも人気を上向いてきています。三浦学苑は特進コース、鶴沼は英語コースと理数コース、湘南学院は国公立アドバンスコースとスタンダードコースがやや難化するかもしれません。これら3校の他のコースも今春並みの難度でしょう。なお、慶應義塾湘南藤沢は、帰国生以外は首都圏在住生に受験資格がないため、コメントは割愛します。

③ 平塚・伊勢原～県西地区

女子校の函嶺白百合はもともと小規模募集です。来春も今春とあまり変わらない入試でしょう。男女校では平塚学園が、今春は昨年とあまり変わらない応募者数でしたが、来春に向けて人気を上向いているようで、進学コースがやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。旭丘も今春は昨年並み応募者数でしたが、大学進学コースは少し入り易くなったようです。立花学園は、今春は応募者がやや増えていましたが、併願受験生が多いことから、総合進学コースが逆に少し入り易くなったようです。相洋は今春、やや応募者が減っていて、特進コース、文理コース文科、同理科、進学コースともやや入り易かったようでした。旭丘、立花学園、相洋の入り易さは、地域の生徒数減少が原因です。来春に向けては、相洋の商業科の人気はやや上がっているようですが、あとは各校、各コースとも人気に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。

④ 相模原・厚木・大和地区

応募者の増加が続いていた女子校の相模女子大は、今春は昨年並みで、人気は一段落でした。来春に向けては人気に変化は見られず、特進、進学コースとも難とは今春並みでしょう。男女校では昨年応募者が大きく増えた麻布大附属が、今春も昨年に続いて大きく増えました。昨年は体育系のコースを募集停止とし、校名を麻布大淵野辺から変更、今春は特進コースを新設していますが、こうした積極的に学校改革に取り組んでいることが、好感度を押し上げています。来春に向けても人気は高いままで、特進コースはさらに難化しそうです。要注意でしょう。進学コースは今春並みの難度だと思われます。東海大相模は昨年減っていた応募者が今春は増加、人気も反転しました。同校野球部の甲子園優勝は記憶に新しいのですが、以前と違って甲子園優勝が翌年の応募者に直接影響するケースは減ってきており、来春は今春並みの難度でしょう。

柏木学園は昨年に続いて今春も応募者が少し増えていましたが、学力上位の受験生が少し離れてきているようで、アドバンスコースは少し入り易くなったようです。来春に向けては人気に変化は見られないようで、アドバンスコース、スタンダードコースとも今春並みの難度になりそうです。光明学園相模原と向上は、一昨年、昨年、今春と、あまり変わらない応募者数ですが、向上は選抜コース、光明学園相模原は文理コースが少し入り易くなっていました。来春に向けてはこの両校とも特に人気に変化は見られません。両校の各コースとも今春並みの難度でしょう。

千葉県私立高校

(1) 校名の変更

柏日体高校は、校名を「日本体育大学柏(略称日体大柏)」に変更します。学校法人が日本体育会から日本体育大学に変更されたことの一環です。また、東海大望洋は「東海大学付属市原望洋」に変更します。こちらは、全国の東海大系列校の中で、校名に地名が入っていない学校については、地名を入れることになったためです。

(2) 学科・コースの改編

千葉県でも特進コースなど進学強化を打ち出したコースの新設が盛んです。来春は、桜林が大学進学コースを特進コースとし、進学カラーを強化します。また、敬愛学園は特進コースと進学コース、それにスポーツの人間科学コースの3コース制でしたが、進学系コースの幅を厚くするため、進学 α コースを新設、従来の進学コースを進学 β コースとします。秀明八千代も今まで特進コース、国際英語コース、

総合進学Aコース、総合進学Bコースの4コースでしたが、総合進学Aコースを強化して文理進学コースとし、総合進学Bコースを総合進学コースとします。

視点・観点

① 総武線・京葉線・東葉高速線方面

まず女子校から。国府台女子と和洋国府台は今春、応募者の減少が目立ちましたが、両校とも昨年は増加しており、隔年的な増減です。国府台女子は普通コースがやや入り易くなっていたようです。来春に向けては、両校とも順番通り応募者が増えそうで、国府台女子の英語科は少定員であることから、やや難化するかもしれません。同校の他のコースと和洋国府台の各コースは、公立併願の受験生が多いこともあって、今春とあまり変わらない難度になりそうです。

千葉聖心も今春は応募者の減少が目立ちましたが、来春に向けては人気に特に変化は見られません。不二女子は県内では珍しく前期が単願推薦のみ、公立高校をはじめとする併願受験は後期のみとしている学校で、今春は少し応募者が増えていましたが、やはり来春に向けては人気に変化は見られず、千葉聖心、不二女子とも今春並みの難度になりそうです。

男女校では、今春、渋谷幕張、東邦大東邦、市川の上位3校とも応募者の減少が目立ちました。昨年は3校とも増えていましたので、隔年的な変化です。3校とも東京都内の難関校との併願の受験生が多い学校で、年によってこうした併願受験生がこの3校を選ぶのか、それとも埼玉県や常磐線沿線の学校を選ぶのかで応募者数が変動しています。このうち、渋谷幕張と東邦大東邦はやや入り易くなったようです。来春に向けては、渋谷幕張も市川も人気が上がっていて、応募者は増えそうですが、特に市川はやや難化するかもしれません。渋谷幕張は今春並みでしょう。東邦大東邦は、来春の入試が最後で、2017年度からは完全中高一貫校に移行します。高校入試では、「最後だから」といった駆け込み受験生はあまり出ないものですが、「後輩がいなくなる(併設中からの内部進学者はいます)」といった面での抵抗感はあるようで、人気動向についてはまだ流動的です。ただ、大幅に入り易くなることはないでしょう。

昭和学院秀英は今春、応募者が少し増えて厳しい

入試でしたが、来春に向けては人気に目立った変化は見られません。今春並みの難度になりそうです。昨年まで応募者の減少が続いていた日大習志野と、昨年は増加していた千葉日大第一は、今春は両校とも昨年並みの応募者数でしたが、千葉日大第一は少し入り易くなっていたようです。この両校も、来春に向けては人気に特に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。東海大浦安は、今春も昨年並みの応募者数でしたが、来春に向けて、人気が上がっているようです。やや難化するかもしれません。日出学園は小規模な入試の学校で、来春もおそらくあまり変わらないと思われます。難度面でも今春並みでしょう。ここ数年、応募者の増加が続いていて、昨年は応募者の増加が一段落していた昭和学院は、今春は再び増加が目立ちました。来春に向けても人気は上がっています。総合進学コースはやや難化するかもしれません。特進コースは今春とあまり変わらない水準でしょう。

千葉明德、千葉商科大、東京学館浦安、東京学館船橋は今春、応募者の増加が目立っていましたが、公立併願の受験生が多いこともあって、千葉商科大の特進コース、東京学館浦安の体育コース以外の各コースはやや入り易くなっていたようです。このうち、千葉明德は昨年、併設中学からの内部進学1期生が出るタイミング狙って、レベルアップを図った大幅なコース改編を実施し、応募者が大きく減りましたが、今春は改編が受験生に浸透して、応募者の増加につながっています。来春に向けては、東京学館船橋の普通コースと情報処理コースの人気が上がっているようです。やや難化するかもしれません。同校の他のコースや、千葉明德、千葉商科大、東京学館浦安の各コースは人気に変化は見られないようで、今春並みの難度でしょう。

東葉は今春、応募者がやや減っていましたが、昨年は増えていたので隔年的な変化です。同校も来春に向けての人気に特に変化は見られません。今春並みの難度でしょう。

桜林、千葉経済大、敬愛学園、共学化3年目の植草学園大附属は、今春は昨年並みの応募者数でした。このうち桜林は、前述のように大学進学コースを特進コースに改編します。今までの大学進学コースよりやや難化するかもしれません。総合コースは今春並みの難度でしょう。千葉経済大は安定した人気で、

やはり各コースとも今春並みの難度だと思われます。敬愛学園は一昨年、昨年と増えていた応募者が昨年並みになっていて、人気が一段落していますが、来春に向けては前述のように進学αコースを新設、従来の進学コースを進学βコースとします。進学αコースは、従来よりもワンランク上の難度になりそうです。他のコースは今春並みでしょう。植草学園大附属は男子の高学力層への共学化の浸透が不十分なようで、来春に向けても人気に変化は見られません。各コースの難度の面でも変化はなさそうです。

② 京成・東葉線～県中央部

女子校の愛国四街道は、今春は昨年並みの応募者で、来春に向けても人気に特に変化はなさそうです。今春並みの難度でしょう。

男女校では、地域トップの成田は、今春昨年並みの応募者でした。千葉市の吸引力が高まって千葉市と成田市の間を受験生が成田市に向かわなくなってきたことで、応募者が減少傾向になっていて、対策として前期で併願受験を実施したり、5教科入試も3教科として受験しやすくしてきたことが功を奏したようで、応募者減少に歯止めがかかってきました。来春に向けては少し人気が上がっているようですが、難化はしないと思われます。

八千代松陰は昨年までの応募者増加傾向が一段落しました。来春に向けては再び人気を上向いているようです。IGSコースはやや難化するかもしれません。普通コースは今春並みの難度でしょう。千葉敬愛は人気の上昇が続いているようで、今春も昨年に続いて応募者がやや増えていました。来春に向けても人気に変化は見られませんが、公立併願受験生が多いことから、各コースとも今春並みの難度だと思われます。

千葉英和は昨年減少していた応募者が今春は昨年並みに戻ってきました。来春に向けても人気を上向いているようで、特進文理コースと総進文理コースはやや難化するかもしれません。特進選抜コースは難化しないと思われます。千葉黎明は昨年減少した応募者が今春は増加しましたが、来春に向けては人気に変化は見られないようです。各コースとも今春並みの難度になりそうです。秀明八千代と東京学館は、両校とも昨年は前年並みの応募者でしたが、今春は減少が目立ちました。来春に向けては人気は回

復しつつあるようです。秀明八千代が総合進学コースAを文理進学コースに改編し、総合進学コースBを総合進学コースとして、進学体制を強化することも人気回復の理由でしょう。両校の各コースとも、今春とあまり変わらない難度になりそうです。

③ 常磐線・北総線方面

まず女子校から。聖徳大附属女子は今春、I類・II類を統合して特進に、III類は進学に変更し、わかりやすいコース制に変更しましたが、応募者は昨年並みで、来春に向けても人気に変化は見られません。今春並みの難度になりそうです。

男女校では芝浦工大柏が今春、上位コースのグローバル・サイエンスクラスを新設、在来コースはジェネラル・ラーニングクラスとしましたが、応募者は昨年に続いて少し減っています。同校としては、もっと応募者を増やしたいのかもしれませんが、難化が進み過ぎた面はあるでしょう。来春に向けても人気にあまり変化は見られませんが、難度が下がることは考えにくく、最低でも今春並みと考えた方が良さそうです。専修大松戸は応募者減少が目立った一昨年、前年並みだった昨年、そして増加した今春と、人気を上向きに変化しています。来春に向けてもこの傾向は続いていて、A類はやや難化するかもしれません。E類とS類は今春並みでしょう。

麗澤と柏日体改め日体大柏は、今春は応募者の増加が目立ちました。両校とも昨年に続く増加で、人気が上がっていました。来春に向けても人気は上向きようです。日体大柏の校名変更は、学校法人名の変更に伴うもので、人気に影響は出ていません。ただ、公立併願受験生が多く、両校の各コースとも難化はしないでしょう。二松学舎大柏も今春は応募者がやや増えました。やはり一昨年まで増加が続き、昨年は前年並みで、今春はまた増加に転じ、来春に向けても人気は上向きです。同校も併願受験生が多いことから、各コースとも今春並みの難度になりそうです。

西武台千葉は隔年的な応募者の増減が見られる学校で、今春は減る年でした。進学コースは少し入り易くなったようです。来春は応募者が増えそうですが、予定通りの変化ですから、難度面では各コースとも今春とあまり変わらないと思われます。流通経済大柏は昨年に続いて応募者がやや減っていました。

同校も以前は隔年的な変化が見られましたが、昨年からは出願基準を引き上げたことで応募者が減少しています。I類は若干入り易くなったかもしれませんが。来春に向けてはもとの隔年的な応募者の変化に戻りそうで、応募者が増えると思われませんが、やはり予定の変化ですから、各コースとも難度は変わらないと思われまふ。我孫子二階堂と中央学院は、今春は昨年並みの応募者数でしたが、我孫子二階堂は受験生の学力層がやや下位にシフトしているようで、進学コース、総合コースとも少し入り易かったようです。両校とも来春に向けては人気に変化は見られず、今春並みの難度でしょう。

④ 県東部・県南部

生徒数の減少が目立つ地域で、全体的に静かな入試情勢です。東海大望洋は前述のように東海大市原望洋に変更しますが、全国の東海大系列校で、校名に地名が入っていない学校について、地名が入るように変更することの一環で、もともと地名が入っていた東海大浦安は変更の対象にはなっていない。来春に向けては人気に変化は見られず、スーパー特進・総合進学コースとも今春並みの難度でしょう。

埼玉県私立高校

(1) 学科・コースの改編

大学進学体制の強化やスポーツ等で存在を少しでもアピールしたい学校が多く、毎年コース・類型の変更が盛んです。来春に向けては開智が最上位コースとしてTコースを新設、在来のS類、D類はそれぞれSコース、Dコースとします。・東野は大学進学αコースを特進αコース、大学進学βコースを特進βコースとして、進学カラーを鮮明にするほか、総合進学コースは進学コースに改称します。国際学院は、珍しい総合学科の高校ですが、併設の中学校から内部進学1期生が出ることから、新たに普通科を新設します。今春までは総合学科の中で特別選抜コースと特別進学コースを設置していましたが、これを普通科に移行し、それぞれ普通科のアドバンスコース、同・セレクトコースとします。総合学科の総合進学コースIとIIは総合学科のまま、それぞれ選抜進学コースと進学コースに改めます。

また、上位コースを再編する学校もあり、東京成

今春の入試シーズンに突入してから校名変更を発表した翔凜(旧千葉国際)も今春は応募者の減少が目立ちました。同校は昨年民事再生法を申請していますが、旧経営陣がすでに退陣していて、再建途上の、地元も了解した予定の申請でした。今春の応募者減も、この件の影響よりも地域の生徒数の減少が大きく、来春に向けても状況はあまり変わりません。難度も各コースとも変わらないでしょう。文理開成も経営再建中で、地域的にも今春も小規模な入試でしたが、来春も変わらないと思われまふ。難度も各コースとも変化はないでしょう。

横芝敬愛、茂原北陵、木更津中央、同校の系列の市原中央は、今春は応募者の増加が目立ち、千葉学芸、敬愛八日市場、千葉県安房西、女子校の千葉萌陽はやや減少、志学館、同校の系列の拓大紅陵、小規模入試の暁星国際は昨年並みの応募者数でした。千葉学芸や市原中央、志学館など、隔年的な増減の学校もありますが、いずれも来春に向けての人気に変化は少なく、地域の生徒数減少がじわじわ影響してきています。これらの各校、各コースとも難度に変化はなさそうです。

徳深谷は特進選抜・特進の2コースを再編統合して特進Sコースに変更、東京農大第三は全面変更で、スーパーセレクト・特進コースを再編統合してI類に、総合進学コースはII類するほか、別途、III類(スポーツ科学)を新設します。

このほか、今春校名を小松原女子から変更した浦和麗明は特進選抜コースを特選コースに、特別進学コースを特進コースに変更しますが、略称を正式名称にただけです。なお、細田学園は食物科(調理師コース)の募集を停止します。

(2) 入試日程の変更

埼玉県の私立高校入試には、帰国生等の特別な入試を除いて、「入試日程は1月22日以降」というルールしかありませんが、以前は併願可能な推薦入試が1月22日開始、一般入試が2月から、としていた時期があり、現在でもその名残で、1月22日~25日ごろのほか、1月末や2月に入ってから入試を

実施する学校があります。こうした遅い日程の入試は、都内の各校の影響等から遅い日程になっている慶應志木、早大本庄、立教新座は別とすると、各校とも小規模で追加入試的な状況です。毎年、こうした入試は曜日等の関係で微妙に日程が動く学校が多いのですが、来春は山村学園がこうした入試を取りやめます。逆に取りやめていた花咲徳栄は1月29日に新設、栄東は1月23日の通常の入試を、やはり1月29日に移動します。花咲徳栄や栄東は少数の受験生しかいなくても再チャレンジを希望する受験生に門戸を開こうとするものですが、栄東は別の狙いもあって、29日は記述型の入試です。東京都では比較的多いのですが、埼玉県では公立併願の受験生が多いことから、マークシート式や、記述であっても記号選択が多くなる傾向が見られます。こうした入試では思考力を図りにくくなりがちですが、受験者数が少なくなるを見越して、思考力をしっかり見る入試にしたいという、学校側の期待が現れた入試です。

視点・観点

① 南部地域(旧第1通学区・岩槻区含む)

トップ校の栄東は、今春はアドバンスコースの募集を停止したため、昨年は3,000名を超えた応募者数が2,400名あまりに減少しましたが、県内だけでなく隣接都県も含め、最上位レベルの受験生が集まった入試でした。東・医と α の2コース制になりましたが、来春もこの2コース募集です。人気に変化は見られず、来春も高難度の入試になるでしょう。上記の通り1月29日は記述式の入試になりますが、手ごわい出題が見込まれます。開智は今春、応募者が増えていましたが、前述のように最上位コースとしてTコースを新設します。注目度が高くなっているようで、Tコースは栄東の東・医に近い難度になりそうです。Sコースは今春のS類より若干入り易くなるかもしれません。Dコースは今春並みの難度でしょう。

淑徳与野は今春、応募者が少し増えていましたが、来春に向けては人気に特に変化は見られません。単願のみのS類を含め、今春並みの難度でしょう。大宮開成は進学校としての体制強化が進んでいます。今春は入り易いコースだった特進 β の募集を停止して応募者が減っていますが、来春に向けては学力上

位層の人气が少し上がっているようです。国公立先進コースは若干難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。武南は今春、昨年並みの応募者数でしたが、来春に向けても人气が安定しています。各コースとも今春とあまり変わらない難度になりそうです。

浦和学院は隔年で応募者が増減する学校で、今春はやや減っていました。人気動向に変化が見られないため、来春は順番通り応募者が増えそうです。コースごとではグローバルコースの人气が上がってきているようです。社会のグローバル化を反映しているのでしょう。同コースはやや難化するかもしれませんが、他のコースは各コースとも特に難化はしないと思われます。栄北も今春は自動車科の募集を停止し、進学体制の強化を続けています。今春は応募者が減っていましたが、来春に向けては中堅の学力層の受験生の人气が上がっているようです。普通II・I類はやや難化するかもしれません。特類選抜と特類は今春並みでしょう。同校では入り易いコースの難化の可能性がありますので、注意が必要です。

埼玉栄は、以前は隔年での応募者の増減が目立っていましたが、一昨年を境に人気の上昇が目立っていて、今春も応募者が少し増えていました。来春に向けては人气が一段落しているようで、難度は各コースとも今春並みになりそうです。浦和実業も今春は応募者が少し増えていましたが、同校の場合は隔年現象でした。来春は応募者が少し減るかもしれませんが、予定通りですから、各コースとも難度は今春並みでしょう。

国際学院は前述のように普通科を新設し、上位コースを改編して普通科に移行しますが、受験生側から見ると、今までも総合学科と言いながら、公立高校の総合学科のような多彩な系列よりも進学強化志向が強かったため、あまり大きな変化にはならないと思われます。特進コース改め、普通科セレクトコースはやや難化するかもしれませんが、最上位のアドバンストコースや、総合学科の選抜進学コース、進学コースは、それぞれ今春の特別選抜、総合進学I・IIコースと、あまり変わらない難度でしょう。食物調理も今春並みの難度だと思われます。

秀明英光は今春、応募者が大きく増えましたが、来春に向けてはその反動が表れているようです。一昨年まで、隔年現象的に応募者が増減していた影響

も出そうです。ただ、今春は特進コースと国際英語コースが少し入り易くなっていて、この傾向は来春も続くと思われます。総合進学コースも今春並みの難度でしょう。今春校名を変更した浦和麗明は、昨年の進学選抜コースを特進コースに改めて難化していますが、来春に向けては人気に変化は見られないようです。今春新設されたペットマネジメントコースや調理パティシエコースを含め、各コースとも今春並みの難度になりそうです。浦和ルーテルは独特な教育方針の高校で、今春も小規模な入試でしたが、来春も人気に変化は見られません。難度も今春並みでしょう。

② 西部地域(旧第2通学区)

男子校の慶應志木と立教新座は入試日程も県内他校とは異なり、別格的存在です。両校とも来春に向けて人気に変化はなく、高難度の入試になりそうです。西武文理は、系列の小学校の不祥事が報道されましたが、高校入試での人気にはほとんど影響していません。今春は英語コースが少し入り易くなっていますが、グローバル化時代ですから、一時のことでしょう。来春は英語コースが若干難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。川越東と、今春スポーツ系のIV類の募集を停止して、進学カラーを強めた狭山ヶ丘は、応募者の隔年的な増減が見られる学校です。今春は両校とも応募者が少し増えていましたので、来春はやや減るかもしれませんが、地域では定評がある学校ですから、各コースとも難度は今春とあまり変わらない水準になりそうです。

川越東の系列校、星野女子部は今春応募者がやや増加、星野共学部は昨年並みの応募者数でしたが、来春に向けては特に人気に変化は見られません。各コースとも今春並みの難度でしょう。城北埼玉は昨年、今春と応募者の増加が続いていて、人気が上がっています。来春に向けてもこの傾向が続いているようですが、併願受験生が多いことから、難度は今春とあまり変わらないと思われます。聖望学園は今春、応募者の減少が目立ちました。もともと同校は隔年での応募者の増減が目立つ学校ですが、一昨年、昨年と増加が続いて今春は減っています。来春に向けては人気が回復傾向のようです。今春は、応募者が減っている中で特進コースはやや難化した入試結

果でしたが、来春はこの特進コースも難度を維持しそうです。他のコースも今春並みでしょう。

城西大川越と山村学園は、今春は昨年並みの応募者数でした。城西大川越は来春に向けても人気は安定していて、各コースとも今春並みの難度だと思われませんが、山村学園は今春学力上位層の受験生が増えたようで、特進SAが少し難化していました。来春に向けては人気に特に変化は見られません。今春少し難化した特進SAを含め、やはり各コースとも今春並みの難度でしょう。

山村学園の系列校の山村国際は、今春応募者の減少が目立ちましたが、来春に向けては人気は回復してきているようです。併願受験生が多いことから、難度は各コースとも今春並みだと思われます。細田学園も今春は応募者の減少が目立ちました。今春新設した最上位コースの特進Hもあまり受験生には浸透しなかったようですが、来春に向けては調理師コースの募集を停止して進学カラーを強調しており、人気は上向いてきているようです。進学 $\alpha \cdot \beta$ コースはやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みになりそうです。

秋草学園と東野は今春、昨年並みの応募者数でしたが、秋草学園は改編した選抜進学 $\alpha \cdot \beta$ コースの、東野は大学進学 α コースの人气が今一つで、やや入り易くなっていました。来春に向けては秋草学園がPR強化、東野は前述のように進学体制の強化を狙ったコース改編を実施しますので、応募者数は少し増えるかもしれませんが、各コースとも難化することはなさそうです。西武台は今春、特進選抜コースと特進コースを統合するなど、大きなコース改編を行い、応募者が少し増えていましたが、もともと隔年現象が見られる学校ですから、来春は少し減るかもしれません。ただ、難度面では各コースとも今春並みでしょう。独特な教育方針の自由の森学園、寮制の秀明、音楽系の武蔵野音大附属、東邦第二は今春も小規模な入試で、来春もあまり変わらないと思われます。やはり難度は今春並みでしょう。

③ 東部地域(旧第8通学区・岩槻区除く)

今春、南浦和から越谷レイクタウンに移転して共学化した叡明は、高い人気で応募者が大きく増えました。特進選抜コースを新設しただけでなく、各コースとも難化が進んでいます。来春に向けても人気

に衰えは見られません。難度は各コースとも良くても今春並み、場合によっては、さらにやや上がるかもしれません。昔の「小松原」のイメージはなくなっています。

春日部共栄は今春、応募者の増加が目立ちましたが、来春に向けては人気が一段落しているようです。やや応募者は減るかもしれませんが、各コースとも難度に変化はなさそうです。昌平は一昨年をピークに応募者の減少が続いていて、今春もやや減っていましたが、ここ数年で人気が大きく上昇、難化が進んだ結果です。来春も応募者がやや減るかもしれませんが、人気下がったというよりもハードルが高くなった、という意味になりますから、各コースとも入り易くなることはなく、今春並みを維持するでしょう。獨協埼玉も今春は応募者がやや減っていますが、来春に向けては人気安定しているようです。やはり今春並みの難度を維持しそうです。

開智未来と花咲徳栄は今春、応募者の減少が目立ちましたが、開智未来は未来コースが難化しています。開校5年目の若い学校で、併設中学からの内部進学生が出るようになって、高校募集の合格者を絞っています。「ハードルが高い」と感じる受験生が増えたことが応募者減少の理由ですから、来春も応募者はやや減るかもしれませんが、入り易くなることはなさそうです。花咲徳栄は一昨年のコースのリニューアルの人気一段落してきたからで、来春、応募者が減るようなことがあっても、やはり入り易くなることはないでしょう。

④ 北部地域(旧第3～第7通学区)

まず別格的存在の早大本庄から。慶應志木・立教新座とともに県内の他の私立高校とは一線を画しています。今春は応募者の増加が目立ちましたが、来春に向けても人気に大きな変化は見られません。来春も高難度の入試でしょう。

東上線・越生線方面では、今春は昨年、一昨年と応募者の増加が続いていた大妻嵐山が減少しましたが、来春に向けては人気回復基調です。ただ、公立志向が強い地域で、各コースとも難化することはないでしょう。東京農大第三は前述のようにコースを大幅に改編します。期待感もあって、応募者は増えるかもしれませんが、I類は今春の特進コース並み、II類は総合進学コース並みの難度になりそうで

す。III類はスポーツで単願のみですから、今までの総合進学コースより少し入り易くなるかもしれません。埼玉平成と武蔵越生は、今春応募者の増加が目立ちましたが、来春に向けては人気一段落してきたようです。両校の各コースとも今春並みの難度でしょう。

高崎線方面では、今春は昨年に続いて本庄東の応募者数の増加が目立ちました。人気が上がっていますが、特進コースの受験生の学力層がやや下位にシフトしたようです。来春に向けては人気に特に変化は見られず、各コースとも今春並みの難度でしょう。本庄第一も今春は応募者がやや増えていました。特進コースは少し難化しています。同校は来春中学を開校しますが、高校の人気には影響はないようです。やはり各コースとも今春並みの難度になりそうです。東京成徳大深谷は、今春応募者が少し減っていましたが、来春に向けては人気に変化はないようです。同校も各コースとも今春並みの難度でしょう。正智深谷は、今春の応募者数は昨年並みでしたが、学力上位生の受験が増えていて、Sプラスコースは少し難化していました。来春に向けてもこの傾向に変化は見られず、同コースはやや難化するかもしれません。他のコースは今春並みの難度でしょう。

☆ ☆ ☆